

第六講 新石器時代から前期青銅器時代へ：不連続の側面

レポート課題：ギリシアの新石器時代の特徴について論ぜよ。

時代区分：

前期青銅器時代 I 前 3600～2900 年頃

前期青銅器時代 II 前 2900～2500 年頃

前期青銅器時代 III 前 2500～2100 年頃

新石器時代から前期青銅器時代への移行

断絶面：居住地の移動

遺跡の層が連続していない

層を明確に区別できる

断絶面が明確

防御施設を伴う集落の出現

住居・・・集合的、仕切り壁を持ち、四角形をした部屋

(エウトレシス)

町邑的規模に達する (エウボイア島のマニカ：1 × 2 km：EHII)

大きな公共建造物の出現 (EHII)

レルナのタイルの家・・・25m × 12m

ティリンスの Rundbau、エギナ島のコロナの白い家など

土器による変化

嘴壺 (注口器)、ソースボート (舟形ソース入れ)、フライパン

型土器、高脚台付き盃 (カリケー) の出現と普及

高速の回転轆轤の使用 (EHIII)

南部ギリシアの急速な発展

集落の急増：EHII の時期の間に

ペロポネソス半島・・・20 から 74 に

アッティカ・・・7 から 29 に

人口密度の急増：

メッセニア・・・180 人/1000 km²から 600 人に

ラコニア・・・85 人/1000 km²から 400 人に

マケドニア中部・・・80 人/1000 km²から 180 人に

(北部ギリシアの停滞)